

静岡大学学生歌 われら若人

ピアノ伴奏付き斉唱
(簡易伴奏編曲)

詞： 高嶋 善二

曲： 石井 歓 (1962)

静岡大学学生歌

われら若人

作詞：高嶋 善二

作曲：石井 勲 (1962)

簡易伴奏編曲：

静岡大学OBグリークラブ (2015)

Allegretto 軽快にはぎれよく

Musical score for the first system. It features a piano accompaniment in 2/4 time with a key signature of two flats (B-flat and E-flat). The tempo is marked **Allegretto** and the performance instruction is "軽快にはぎれよく". The piano part starts with a forte (*f*) dynamic and includes the instruction *non legato*. The vocal line is currently blank.

Musical score for the second system, including the vocal line and piano accompaniment. The tempo and performance instructions remain the same. The piano part continues with the *non legato* instruction. The lyrics are written below the vocal line.

おきに な が - れ る な が れ る - くるしお
おかに た だ - よ う た だ よ う - ちゃのかお
うしお み ち - く る み ち く る - はまなこ

15

や 富 士 の た か - ね の そ れ よ - り も そ れ よ り
 り み か ん の は - な の の そ れ よ - り も そ れ よ り
 や 三 保 の は ま - べ の そ れ よ - り も そ れ よ り

15

gva

22

も ふ か く け だ - か く た く ま し く
 も わ か く き - - よ く た す こ こ や し く
 も あ お く ひ - - ろ く う つ や く か し く

22

29

- わ れ ら み ら い を め - ぎ - す わ こ - - ど
 - わ れ ら ぶ ん か を に - な - す う な か - - ま た
 - わ れ ら ま こ と を も - と - む な せ か い - - ま ね た ん

29

non legato

gva

36

のちの われら われら われら われら はしずおか

(*gva*)-----|

41

だいがく われら われら われら われら われら われ

41

45

rit. *ff* *a tempo*

1. 2. 3.

らは われらはわこ - ど ど

45

rit. *a tempo* *ff*

1. 2. 3.

gva-----| *gva*-----|

静岡大学学生歌

われら若人

作詞 高嶋 善二

一 沖に流れる

流れる黒潮や

富士の高嶺の

それよりも

深く 気高く たくましく

われら

未来をめざす若人の

われら われら

われらは静岡大学

われら われら われら

われらは若人

二 岡にただよう

ただよう茶の香り

みかんの花の

それよりも

若く 清く すこやかに

われら

文化を荷う仲間たち

われら われら

われらは静岡大学

われら われら われら

われらは若人

三 潮満ち来る

満ち来る浜名湖や

三保の浜辺の

それよりも

青く 広く 美しく

われら

真理まことを求む青年の

われら われら

われらは静岡大学

われら われら われら

われらは若人

1962年の静大祭で産声をあげた学生歌「われら若人」は、静大グリークラブ等学内の合唱団で歌い継がれてきたが、50年の歳月の間に少しずつ変容し、幾つかの楽譜が乱立していた。静大OBグリークラブは、本来の歌の姿を求めてオリジナル楽譜を探していたところ、2011年、作詞者の高嶋善二氏が大切に保管していた作曲者石井敏氏の署名入り楽譜のコピーを探し当てた。楽譜は、男声合唱とピアノ伴奏付き斉唱の2種類。従来無伴奏男声合唱と思っていたこの歌にピアノ伴奏付き斉唱の楽譜があったのだ。同団の検討で、これこそ「われら若人」の原点であることが判明した。

しかし、この楽譜を詳細に検討してみると、手書き故の誤記や音楽常識に合わない幾つかの問題が明らかになり、ピアノ伴奏はそのままでは演奏困難なことが指摘された。そこで、静大OBグリークラブは、1962年の学生歌発表会に参加して作曲者の直接指導を受けた人々が健在な今のうちに、これらの問題点の解決を図るべく活動を始め、その第一歩として、ピアノ伴奏の原曲のオリジナリティーを尊重しつつ、演奏困難なところを改善した簡易伴奏版を作った。

静大OBグリークラブは、静大学生や同窓生にこの歌を歌い広めたいと考えている。